

沖縄観光の姿

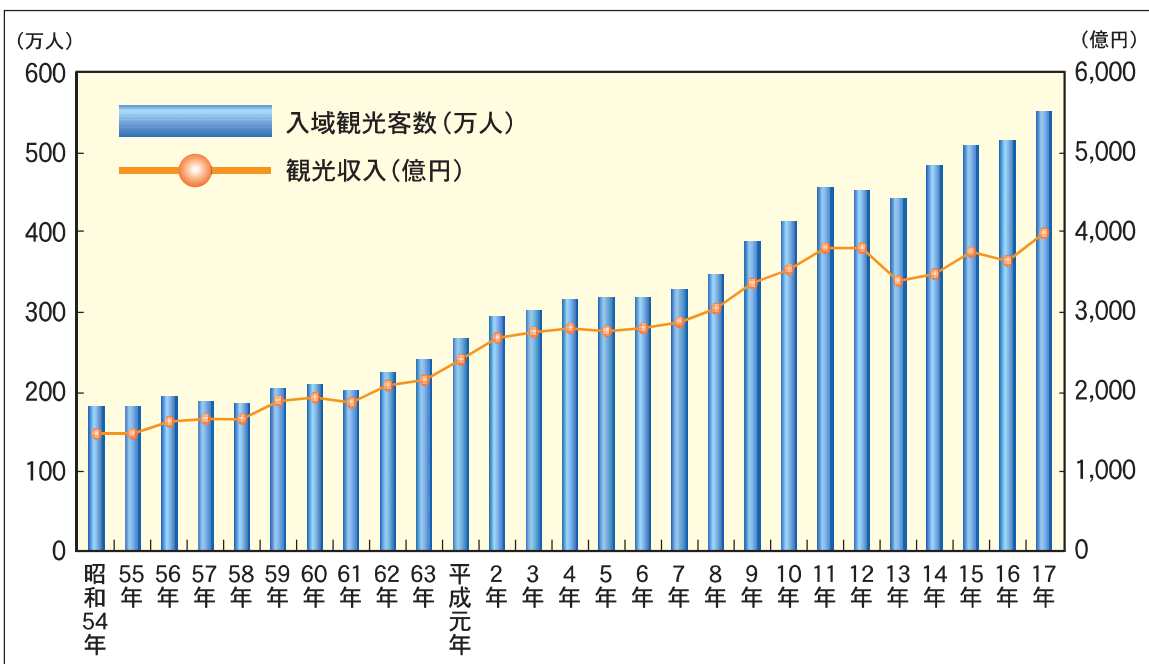
平成17年度 観光統計実態調査 (概要版)

平成18年3月

沖縄県 観光商工部

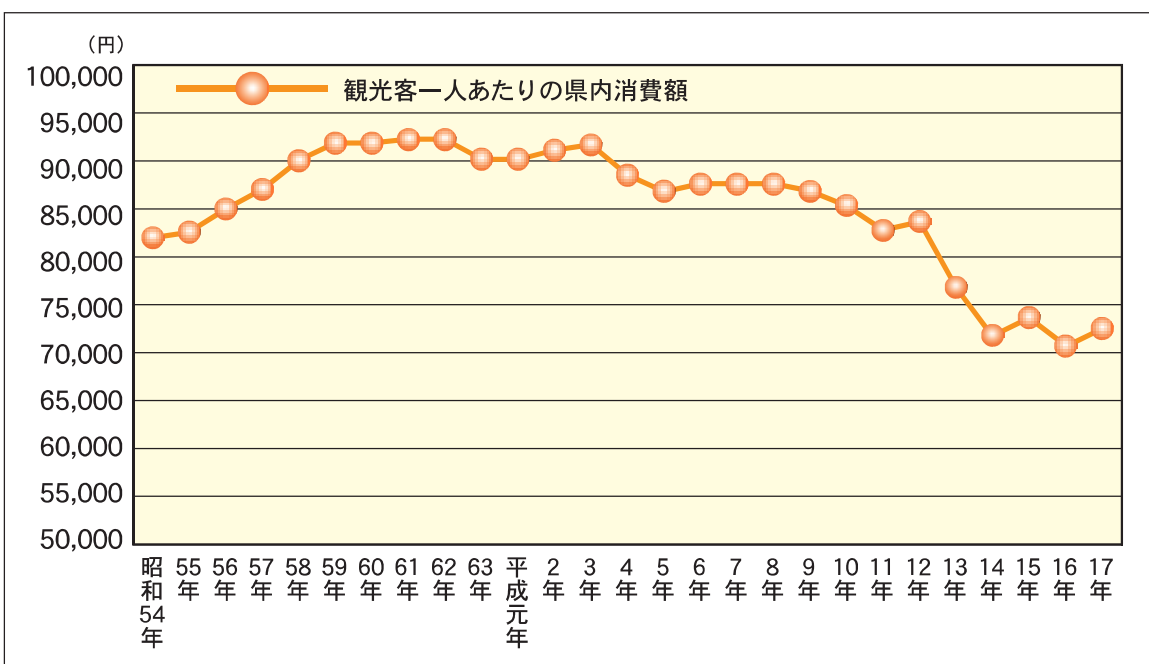
沖縄県における観光の重要性

入域観光客数と観光収入の推移



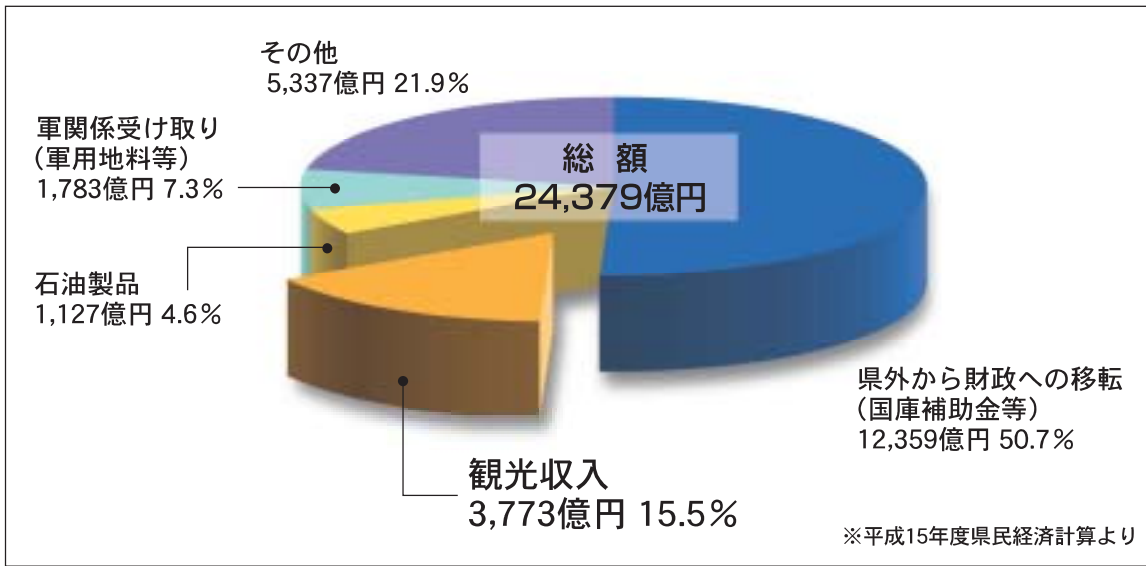
平成17年の入域観光客数は、航空輸送力や宿泊施設の拡大、沖縄人気の継続などを背景に、550万人に達した（前年比6.7%増）。

観光客一人あたりの県内消費額



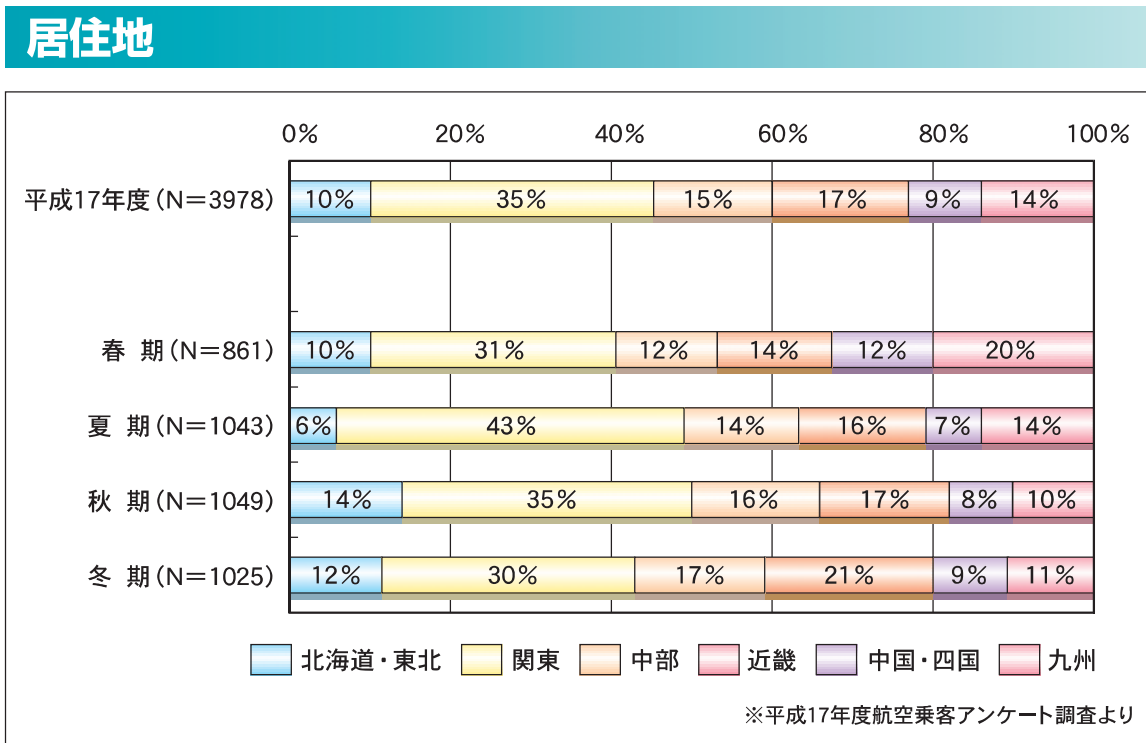
平成17年の観光客一人あたりの県内消費額は、土産・買物費の増加などにより、72,421円と増加に転じた（前年比2.7%増）。

県経済に占める観光収入の重要性 (平成15年度)



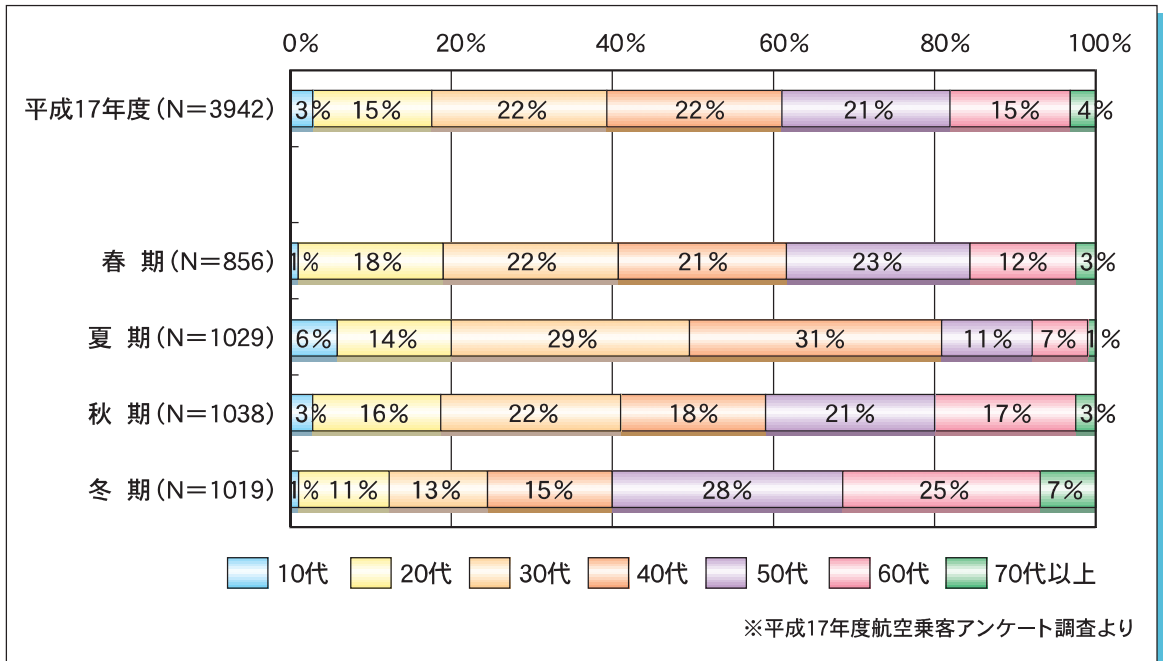
県経済が県外から得た収入のうち、観光収入が15.5%となり、産業としては一番高い割合を占めている。

県外客の特徴 (外国人客と修学旅行生を除く)



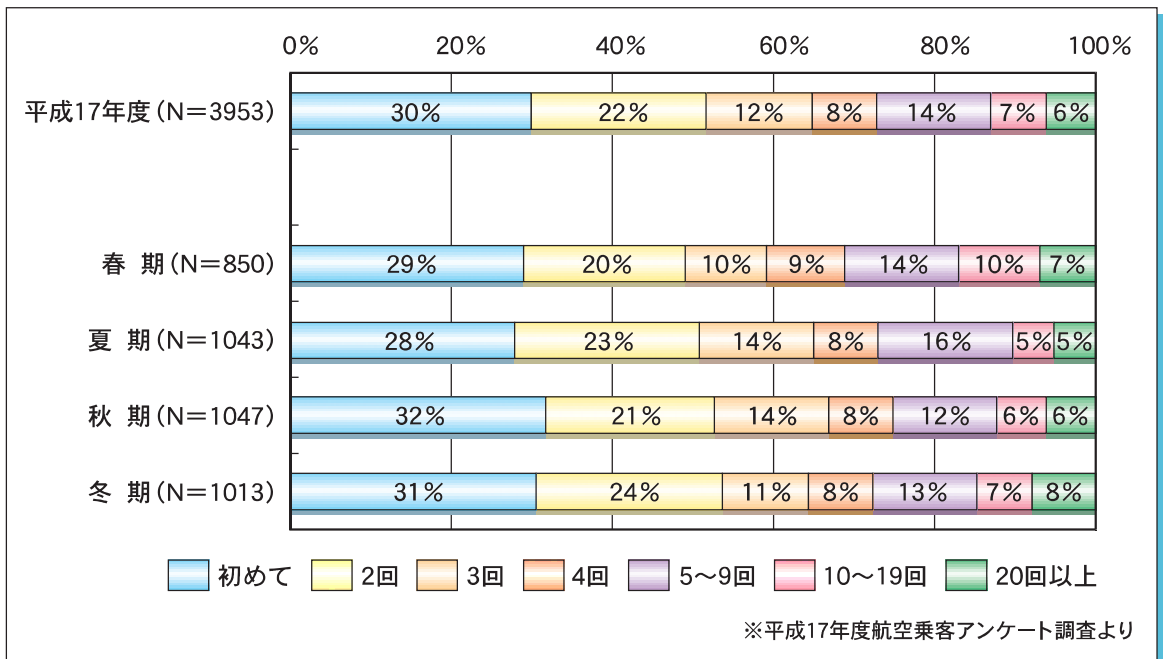
居住地は「関東」が最も多く、特に「夏期」の割合が高くなっている。

年 齢



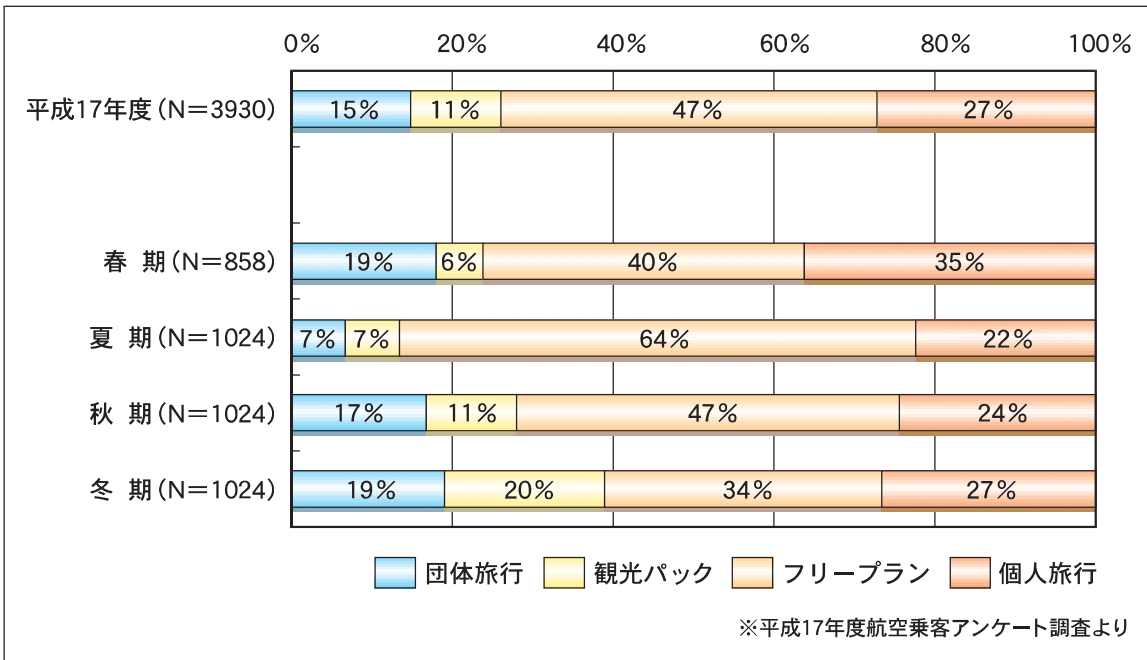
「夏期」は“30代”と“40代”が特に多くなっており、「冬期」は“60代”の割合が多くなっている。

沖縄来訪回数



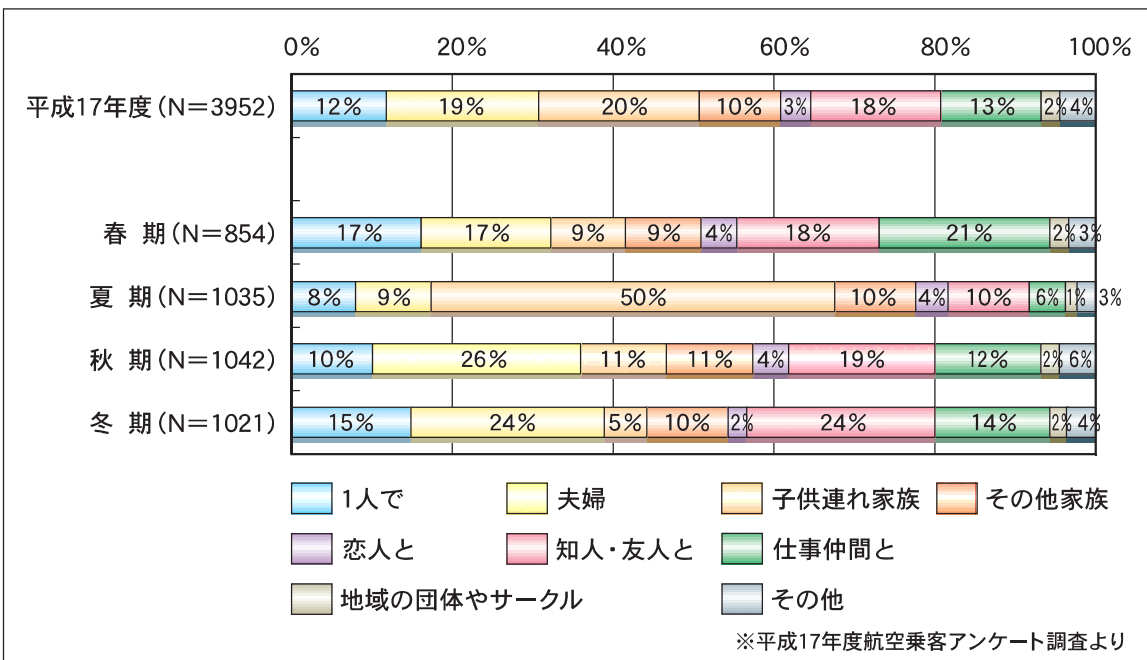
リピーターが約7割を占めている(ただし、外国人客と修学旅行生を除く)。10回以上の来訪経験を持つ観光客は、「春期」と「冬期」で多くなっている。

旅行形態



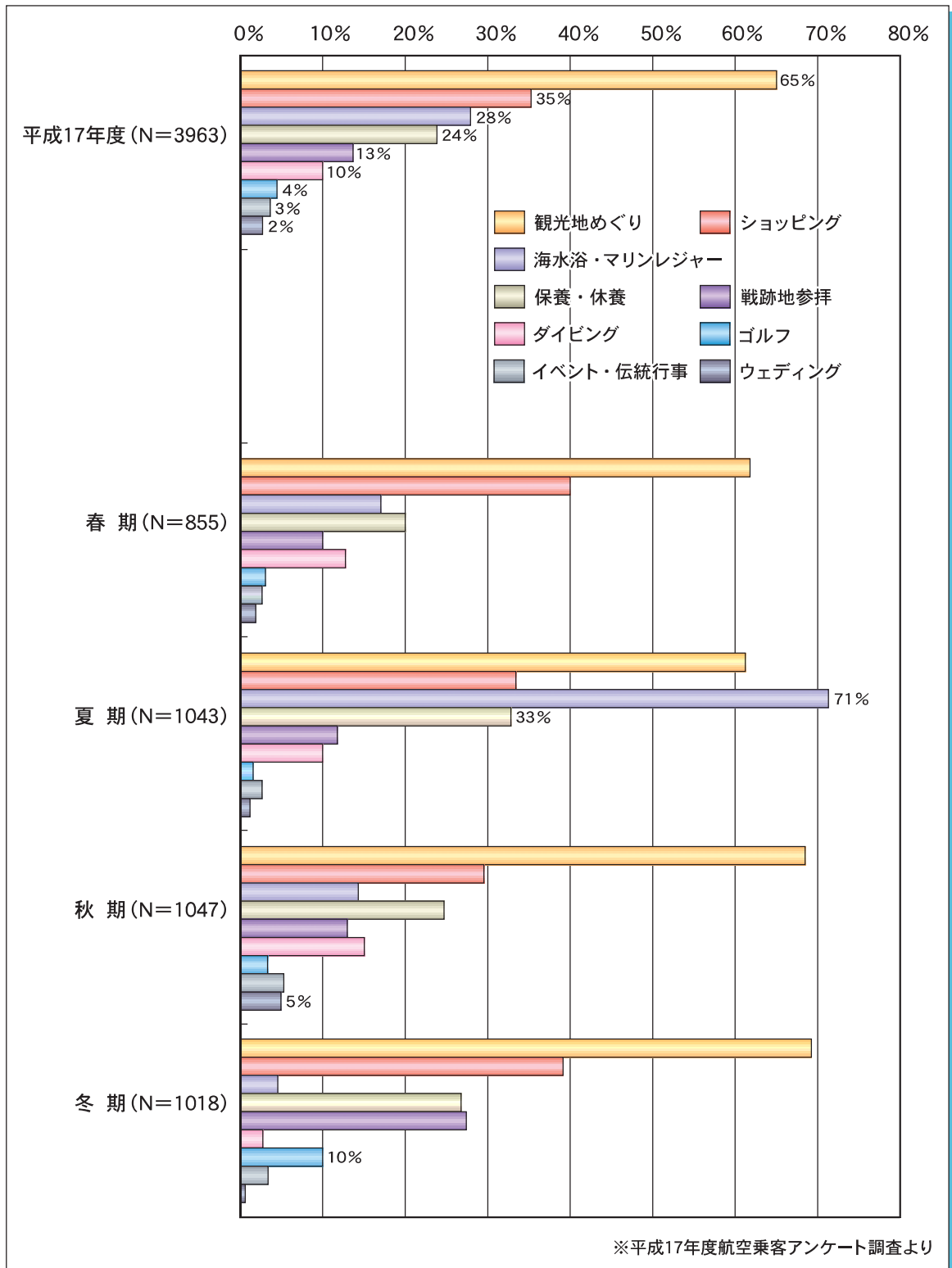
“フリープラン”が約半数を占めており、特に「夏期」でその割合が高くなっている。

同行者



夫婦と家族旅行で約半数を占めており、特に「夏期」の“子供連れ家族”が多くなっている。

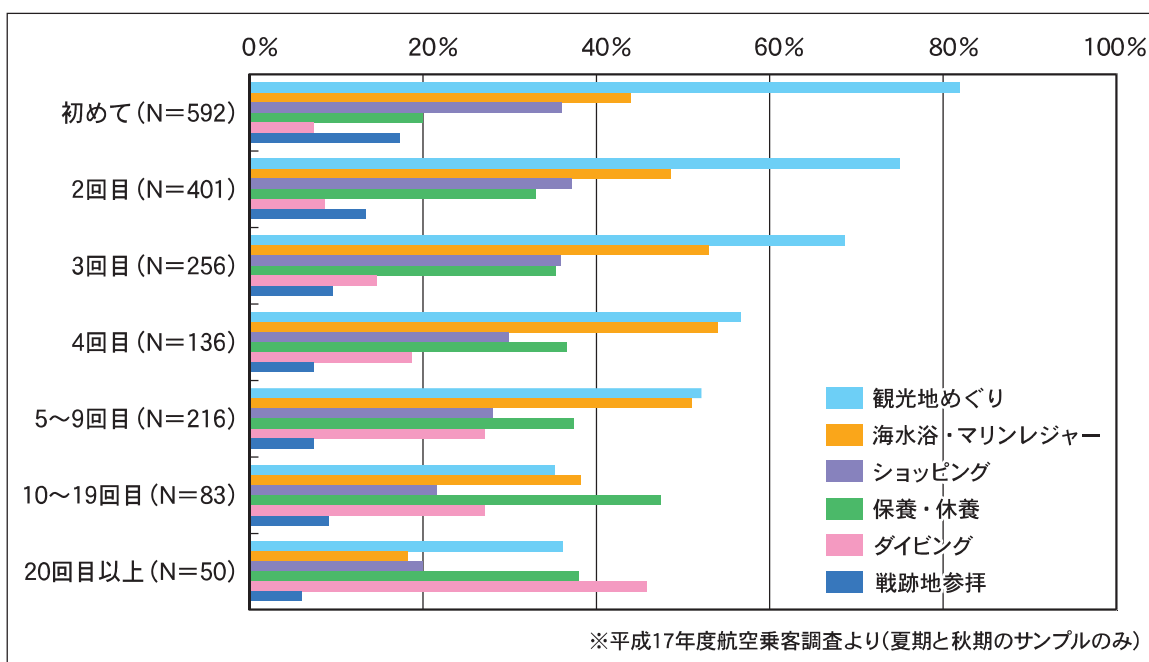
活動内容



通年では“観光地めぐり”が最も多く、“ショッピング”、“海水浴・マリンレジャー”、“保養・休養”が続く。「夏期」は“海水浴・マリンレジャー”や“保養・休養”が、「秋期」は“ウェディング”、「冬期」は“ゴルフ”が多くなっている。

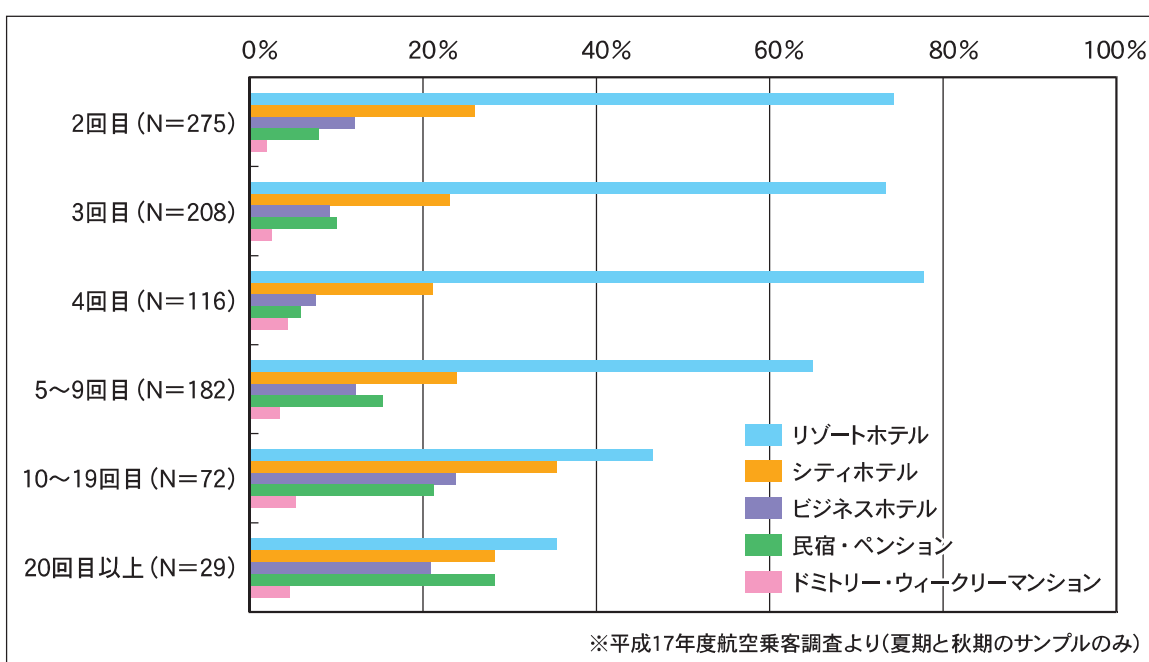
来訪回数別の県外客の特徴 (外国人客と修学旅行生を除く)

来訪回数別の活動内容



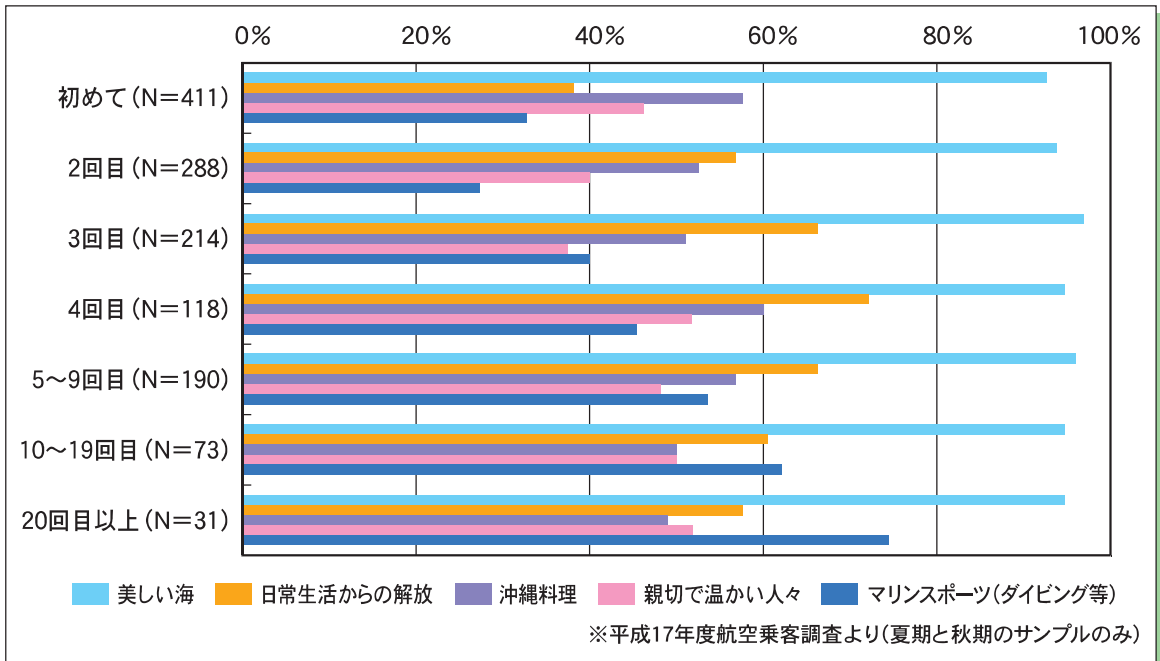
来訪回数が増えるにつれて、“観光地めぐり”や“ショッピング”の割合が下がり、“保養・休養”や“ダイビング”は増加している。

来訪回数別の利用宿泊施設



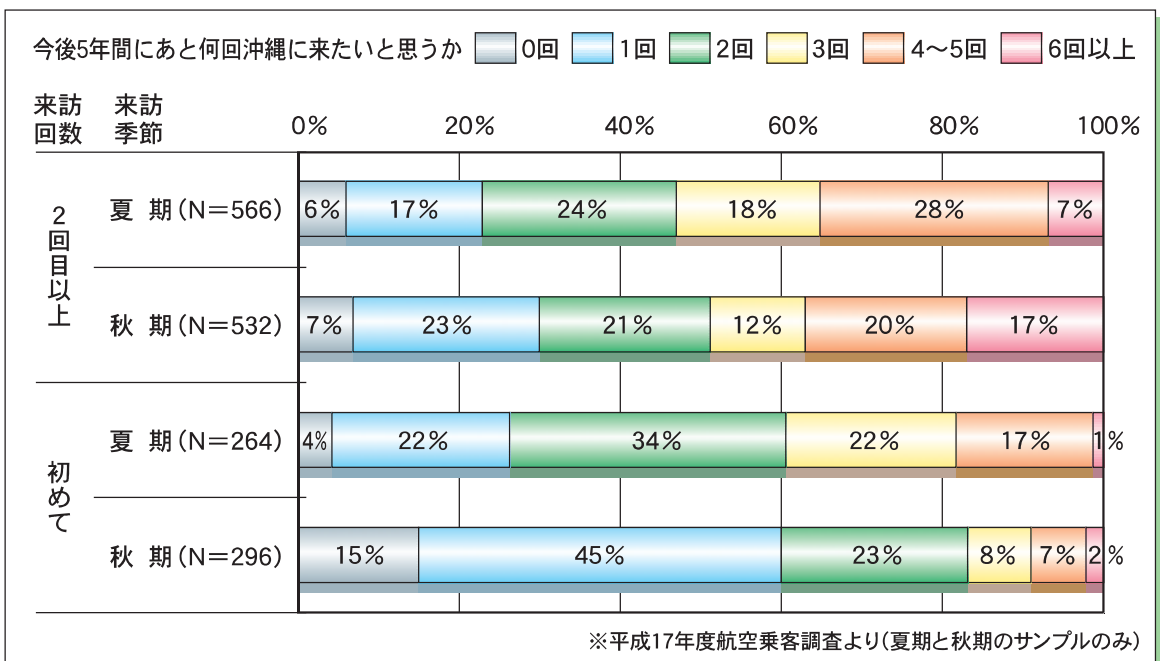
来訪回数が5回目以上になると、“リゾートホテル”は減少し、“ビジネスホテル”や“民宿・ペンション”が増加している。

来訪回数別の沖縄に感じている魅力



来訪回数にかかわらず、“美しい海”を魅力と感じる割合が突出して高くなっている。また、“マリンスポーツ(ダイビング等)”は来訪回数の増加とともに増えている。

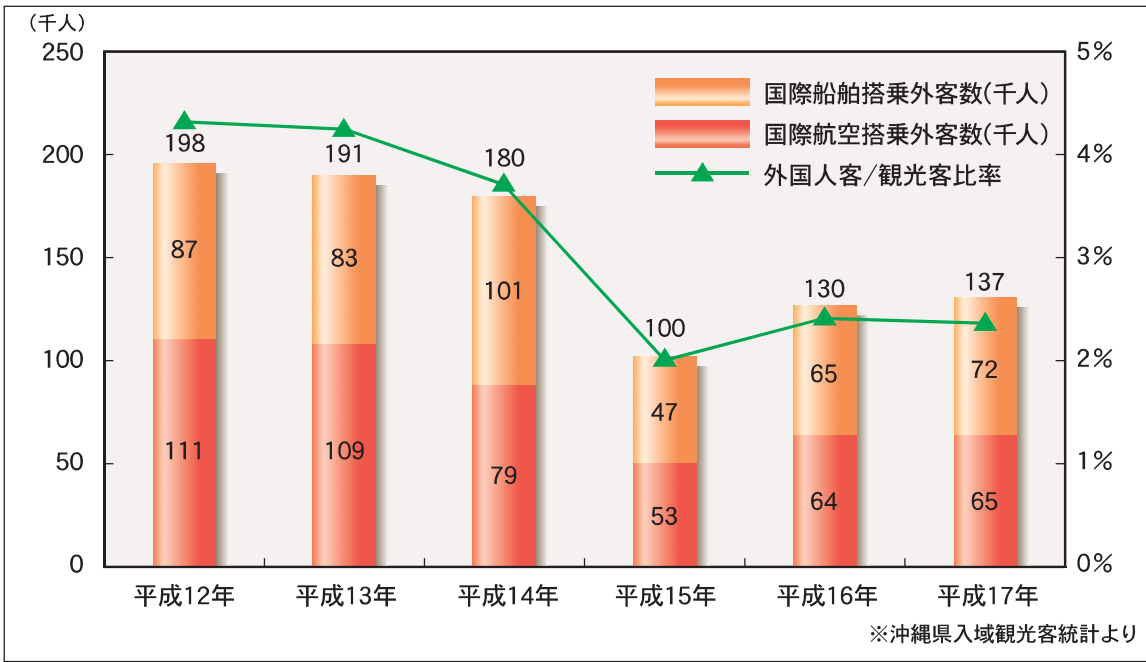
また沖縄に来たいと思うか (来訪回数/来訪季節別)



秋期に初めて沖縄を訪れた観光客は、夏期に比べて再訪意向が低くなっている。

外国人客の動向

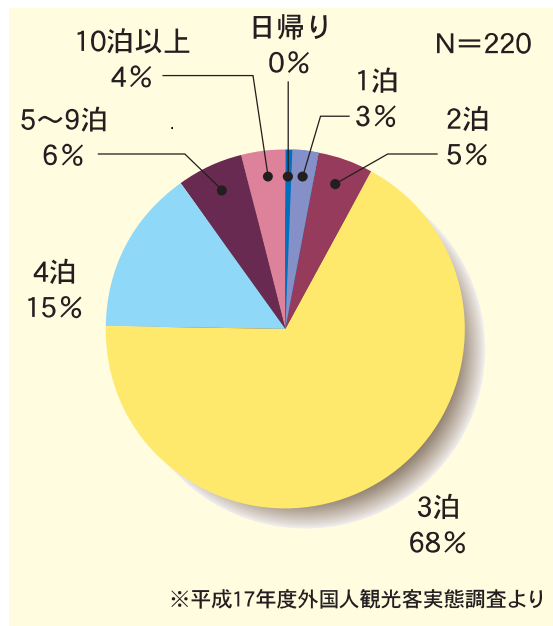
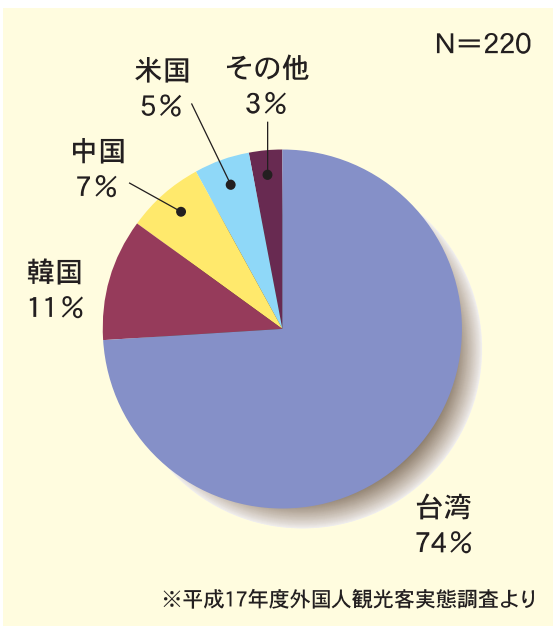
国際航空搭乗外客数と国際船舶搭乗外客数の推移



平成17年の外国人客数は13万7千人で、入域観光客数全体に占める割合は2.5%となった。

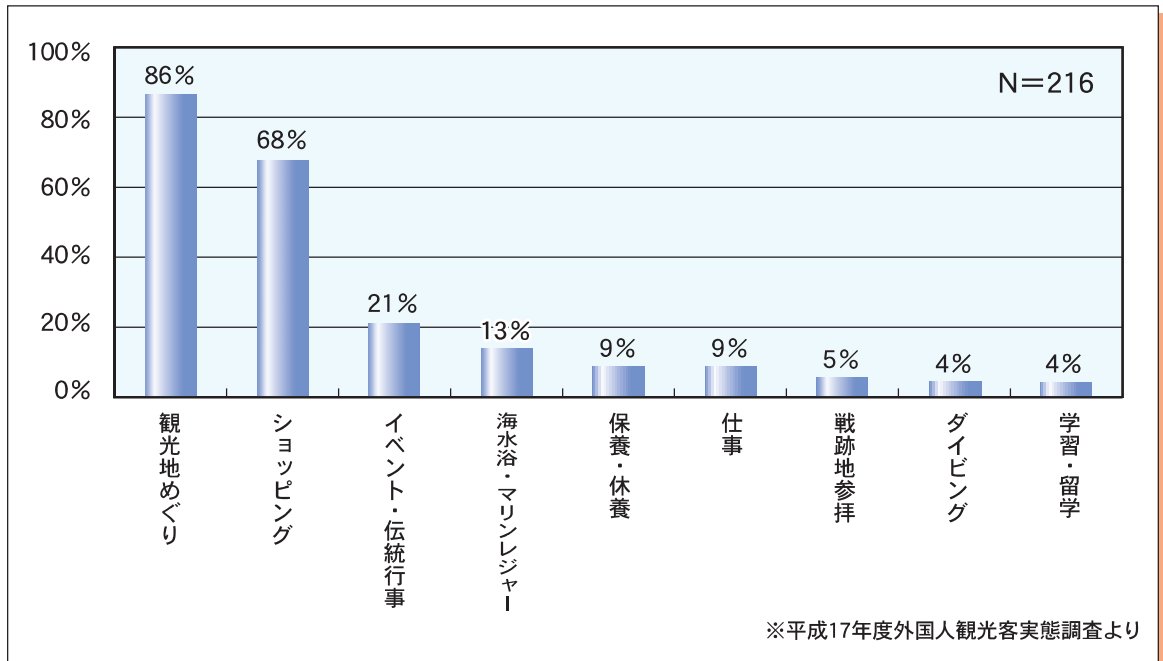
外国人客の特徴

国際航空搭乗外客の特徴(国籍と泊数)



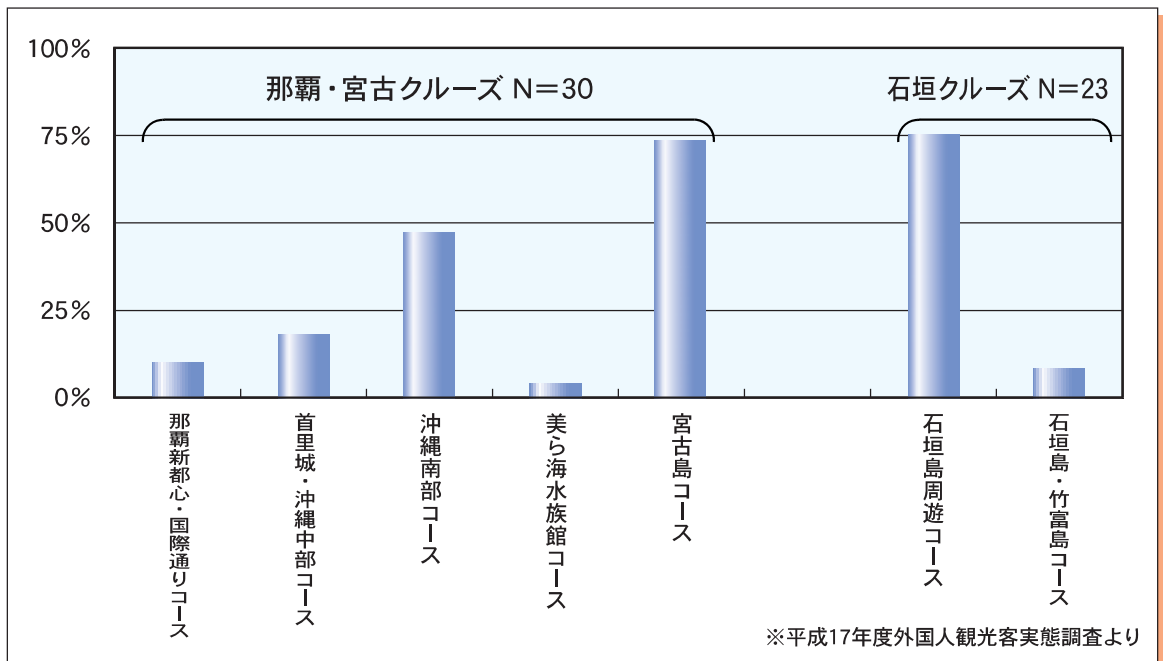
平成17年度の国際航空搭乗外客は、国籍では「台湾」が最も多く、泊数では「3泊」が最も多くなっている。

国際航空搭乗外客の活動内容



「観光地めぐり」が8割を超え、「ショッピング」が7割近くに達しているが、「海水浴・マリンレジャー」や「保養・休養」は少ない。

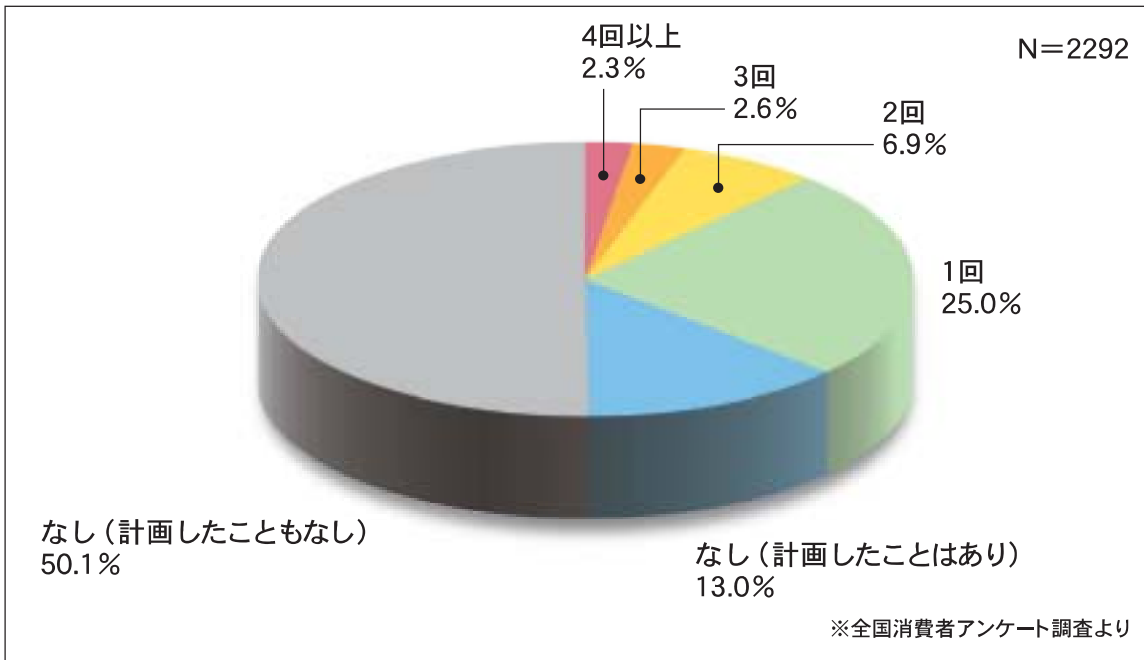
国際クルーズ乗船客のオプションツアー購入率



那覇・宮古クルーズでは「沖縄南部コース」と「宮古島コース」が、石垣クルーズでは「石垣島周遊コース」が人気となっている。

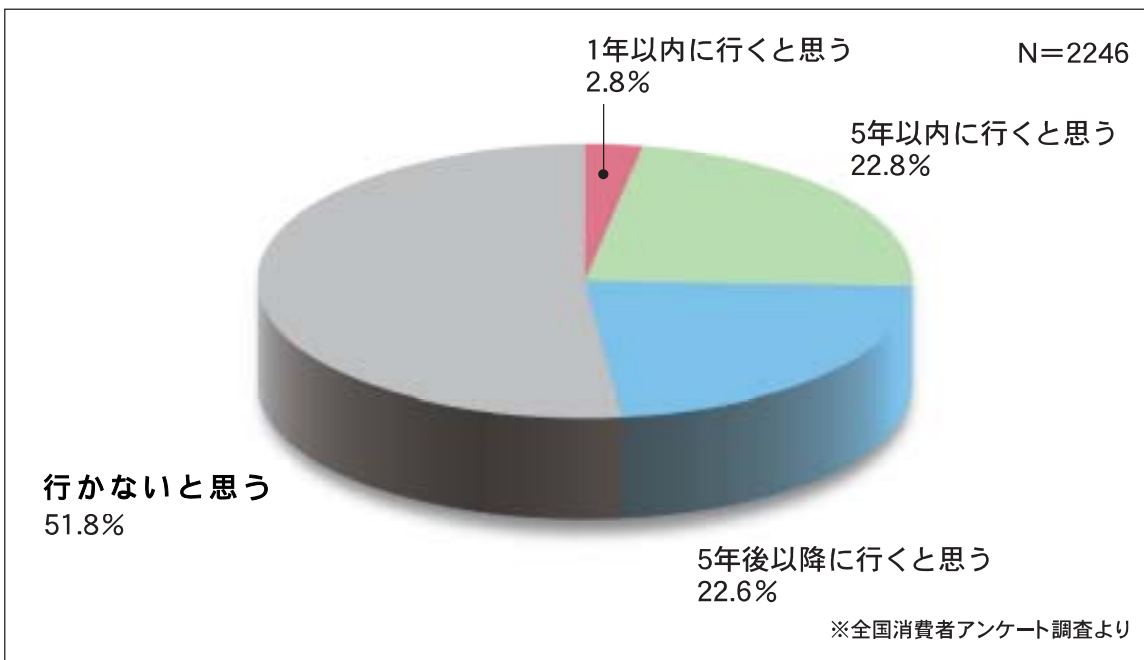
沖縄観光マーケティング調査

沖縄旅行経験回数



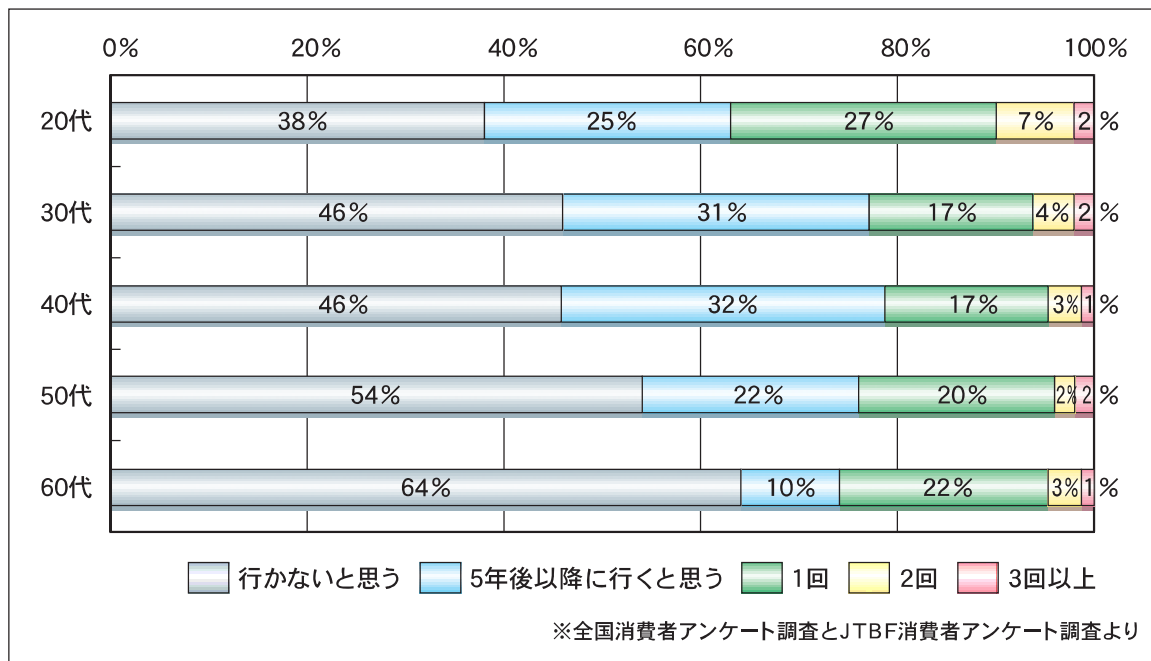
国内市場の63.1%はまだ沖縄を訪れたことがなく、うち50.1%は計画したこともないことがわかる。

今後5年間の沖縄旅行意向



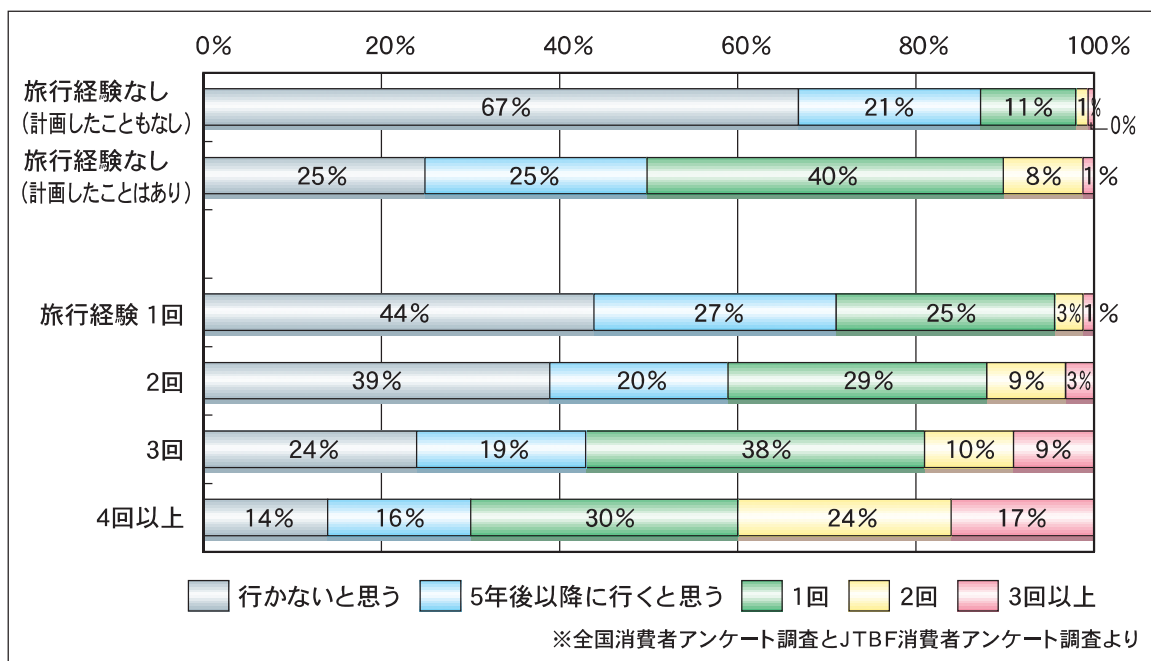
今後の沖縄旅行意向をみると、約1/4が今後5年以内の沖縄旅行意向がある一方で、行かないと考えている人が過半数を占めている。

今後5年間の沖縄旅行意向（年齢別）



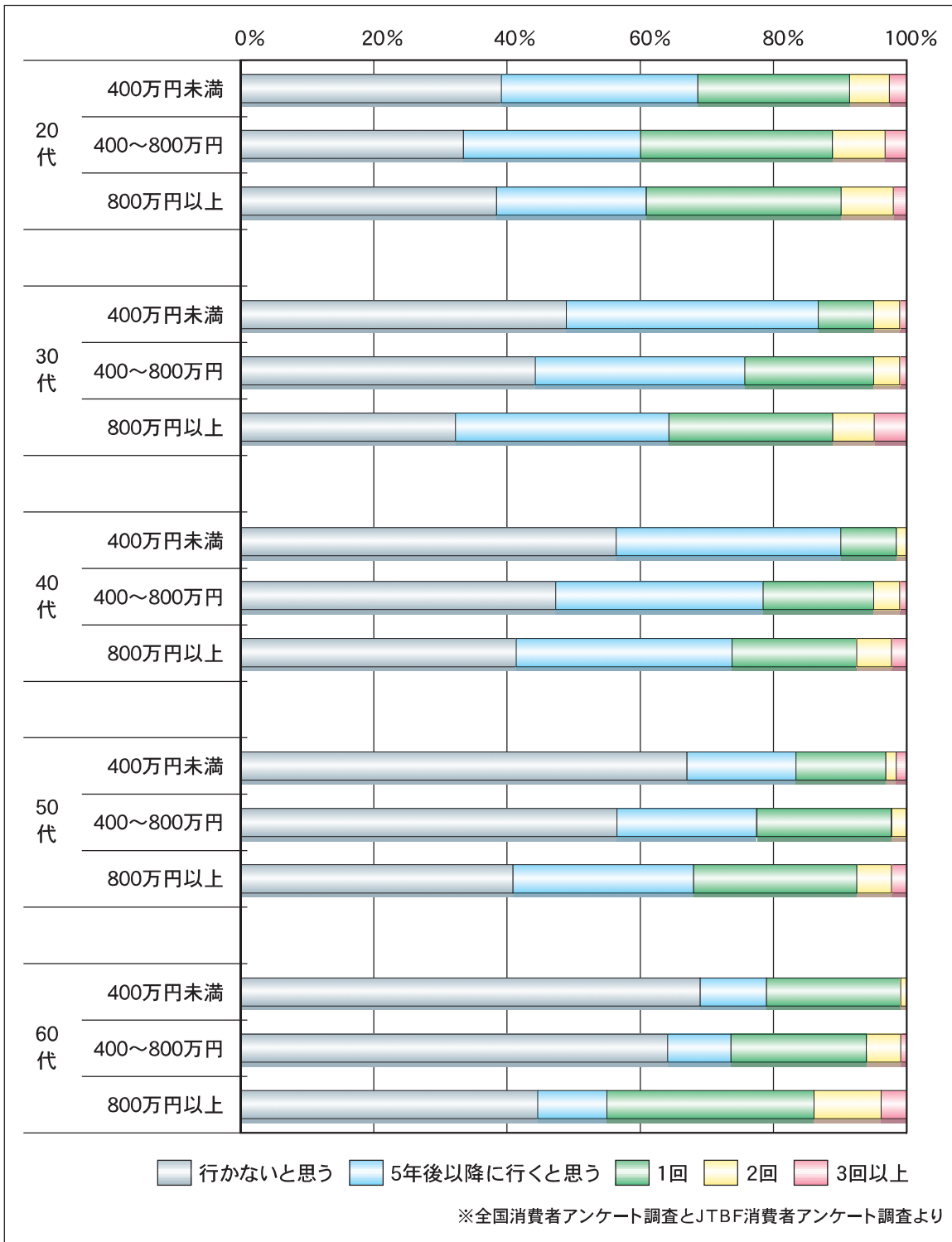
年齢が上がるにつれて“行かないと思う”の割合が大きくなっている。

今後5年間の沖縄旅行意向（旅行経験別）



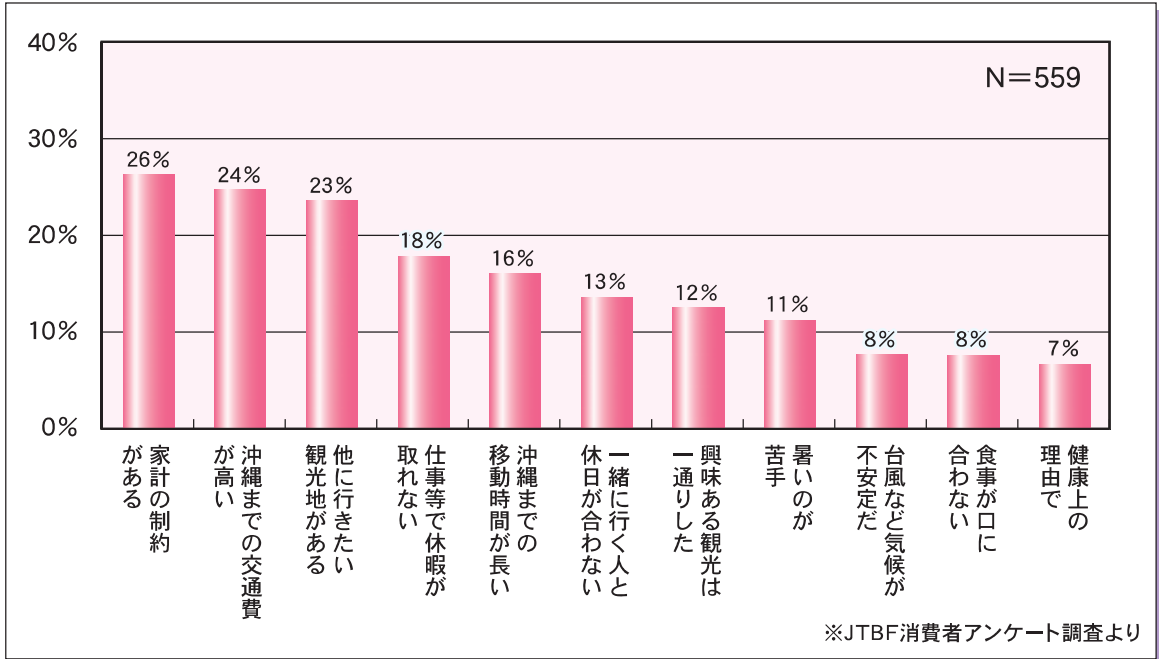
「旅行経験なし(計画したこともなし)」の約2/3が沖縄への旅行意向がない。また、旅行経験が豊富なほど旅行意向が高くなっている。

今後5年間の沖縄旅行意向（年齢/世帯年収別）



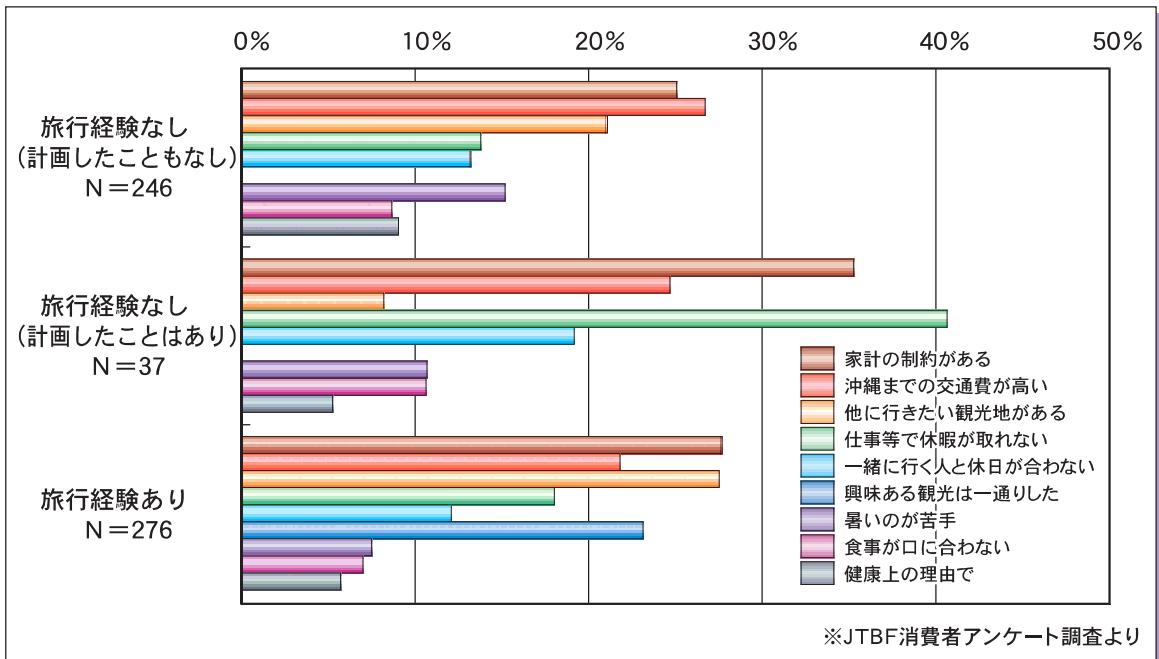
20代では、世帯年収と旅行意向に明確な差はないが、30代以上では世帯年収の増加とともに旅行意向が増加している。また、年齢が上がるほど、世帯年収が旅行意向に与える影響は大きくなっている。60代では、旅行意向が高い一方で、行かないとの回答も多くなっている。

沖縄旅行の阻害要因



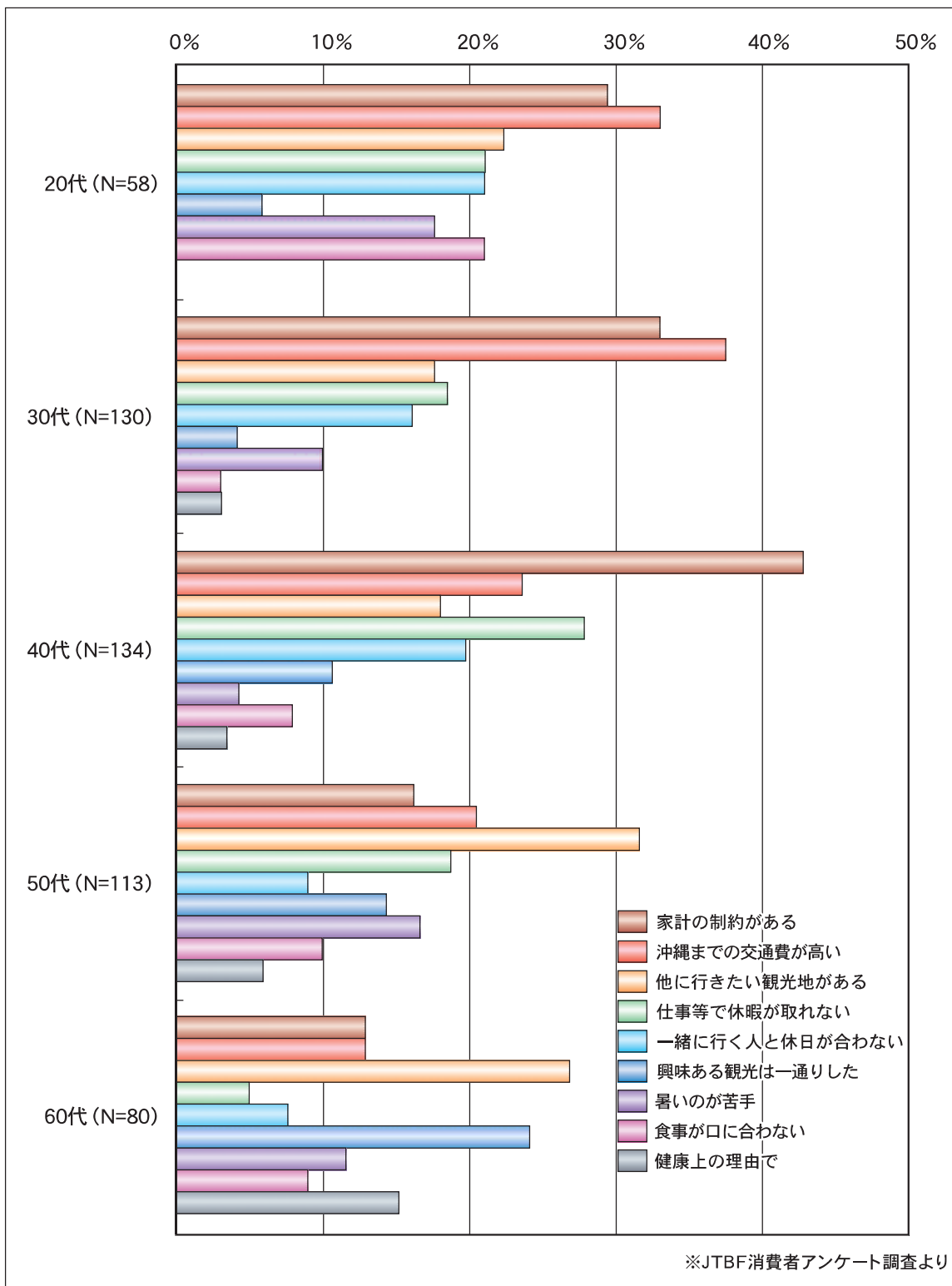
沖縄旅行の阻害要因をみると、“家計の制約がある”や“沖縄までの交通費が高い”、“他に行きたい観光地がある”が多くなっている。

沖縄旅行の阻害要因（旅行経験別）



「旅行経験なし(計画したことはあり)」では、“家計の制約がある”と“仕事等で休暇が取れない”が高くなっている。

沖縄旅行の阻害要因（年齢別）



40代以下では“家計の制約がある”や“沖縄までの交通費が高い”、“仕事等で休暇が取れない”などが高くなっている。50代以上では“他に行きたい観光地あり”や“興味ある観光は一通りした”、“健康上の理由で”が高くなっている。



◆平成17年度航空乗客アンケート調査（空港内調査）

調査時期：平成17年6月、7月、11月、平成18年2月。

調査項目：性年齢、居住地、来訪回数、旅行内容、費目別消費額、等。
(7月、11月調査では属性や旅行内容についてより詳細な質問項目を加えた)

◆平成17年度外国人観光客実態調査

調査時期：【国際航空搭乗外客】平成17年7月、10月、平成18年2月。

【国際クルーズ乗船客】平成17年8月～9月。

調査項目：【国際航空搭乗外客】性年齢、国籍、来訪回数、旅行内容、費目別消費額、等。

【国際クルーズ乗船客】性年齢、国籍、来訪回数、旅行内容、費目別消費額、等。

◆全国消費者アンケート調査

調査時期：平成17年10月、11月。

調査項目：性年齢、居住地、来訪回数、今後の旅行意向、等。

◆JTBF消費者アンケート調査

調査時期：平成17年10月、11月。

調査項目：性年齢、居住地、来訪回数、今後の旅行意向、沖縄旅行の阻害要因、等。

沖縄県 観光商工部

〒900-8570 沖縄県那覇市泉崎1-2-2

TEL：098-866-2763 FAX：098-866-2767

URL：<http://www3.pref.okinawa.jp/site/view/cateview.jsp?cateid=233>

※この冊子は、調査結果のうち特徴的な部分を抜粋して作成しています。
より詳しい内容につきましては報告書をご覧ください。
報告書は上記URLよりダウンロードできます。